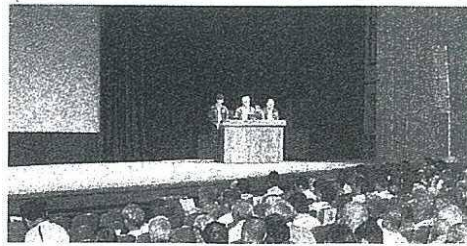


農地保全活動 3組織が発表

鹿児島市でシンポ

国の多面的機能支払交付金を活用して農地などを保全する「水土里（みどり）サークル活動」のシンポジウムが1日、鹿児島市の宝山ホールであった。集落の代表や農業関係者ら1500人が参加。各組織の事例発表や講演を聞き、今後の取り組みを探った。

県内41市町村が活動に取り組んでおり、草



刈りや農道整備だけでなく、農業体験や伝統芸能の継承など地域活性化につながる活動が実施されている。シンポジウムでは、

3組織が事例発表。天城町のミチブシン前野は、集落の展望台や公民館周辺の整備、田植え唄の保存活動を紹介し、「世代間交流を進め、住みよい集落づくりをしたい」と抱負を述べた。また、伝統文化継承事業の一環で民謡を習う地元の小中学生が島唄を披露して会場を盛り上げた。

(成尾由理香)

取り組みについて発表する参加者11日、鹿児島市の宝山ホール